

新任と畜検査員用疾病カラーアトラスについて

検査第一班 ○西條 怜央, 福田 純子, 西村 英之¹⁾, 小野 聡美

1) 動物愛護センター

はじめに

食肉衛生検査所ではと畜場法に基づき、獣医師の資格を持つ「と畜検査員」がと畜場に搬入された家畜について生体から解体まで検査を実施し、食用不適なものを排除すると共に、食肉の衛生的な取扱いについて衛生指導を行い安全・安心な食肉の供給に努めている。検査技術の平準化を図るためには、新任職員や未経験者における着任後の検査技術の早期習得が急務である。当所ではと畜検査員として基本的な知識、技術などを習得させるために着任当初から研修期間を設け、熟練したと畜検査員による検査技術の指導を行っている。

と畜検査における検査対象疾病は多岐にわたり、現在、検査すべき疾病を学ぶ際には既存の成書やカラーアトラス^{1),2),3)}を参考にしている。しかしながら、既存のカラーアトラスは当所のと畜検査において出現頻度の高い疾病の事例が不足している場合があるなど、新任研修の参考資料として最適とまでは言えない点がある。また新任研修中の限られた期間内では遭遇する機会の少ない疾病もあるため、短期間で検査知識を網羅することは難しく、各種疾病の要点を把握するには時間を要する。

そこで昨年度、新任検査員が当所の検査において注意すべき疾病の情報を短期間でも効率よく習得できるよう、宮城県食肉衛生検査所版:「新任と畜検査員用疾病カラーアトラス」(以下「新カラーアトラス」)を作成し、令和 2 年度新任検査員研修の参考資料として試用した。研修期間終了後にアンケート調査による有用性の検討を行い、さらに昨年度作成した豚のと畜検査用資料に加えて、牛のと畜検査用資料について作成したので、その概要と結果について報告する。

今年度の取り組み

1. 新カラーアトラスの有用性についての検討

(1)作成した新カラーアトラスの活用

Microsoft PowerPoint により作成した新カラーアトラスのデータを冊子化し、新任検査員が必要に応じて用いることができるよう所内に設置すると共に、PDF ファイルとして検査所共有サーバーに保存することで複数の検査員が随時確認できるようにした。また令和 2 年度新任検査員研修において、当所に赴任した新任検査員の参考資料として試用した。

(2)アンケートの実施と集計

研修期間終了後、新任検査員 3 名およびその指導を行う検査員 10 名それぞれの立場から、新カラーアトラスの満足度と新任検査員の参考資料としての評価についてアンケート調査を行った。設問ごとの回答に 4 点満点の評価点を設定し、それぞれの評価点をレーダーチャートで比較することで、新カラーアトラスの有用性に加えて指導をする側とされる側の評価の違いについても検討した(図 3)。

2. 牛疾病カラーアトラスの作成

(1)掲載する疾病の選定

当所管轄の M 食肉センターにおける平成 28～30 年度の牛と畜検査(11,696 頭)の記録から各疾病の出現率を算出し,1%以上となる疾病を選定した。

その中から,豚疾病カラーアトラスに掲載があり,牛と同様の病態を示すものを除いた 21 種を選定し,これに精密検査対象となる牛伝染性リンパ腫を加えた,計 22 種を掲載することとした。

(2)疾病ページの作成

写真は各疾病につき典型的かつ高度なものを 3 検体以上撮影し,病変のタイプや程度を考慮した上で掲載するものを選定した。全体の外貌と,病変部の拡大及び断面図を掲載し,必要に応じて矢印や注釈を付記するなど,一目で要点が把握できるよう工夫した(図 1)。あわせて,比較対象とするために正常な臓器の写真に掲載した。

病変の概要は数項目の箇条書き形式で作成し,新任検査員が実際の検査でどのような対応が必要となるか短期間で理解・習得できることを目指した(図 2)。あわせて,検査簿への記録に使用する略記号と出現率も表記した。出現率は検査頭数を考慮し,豚疾病とは別の基準で 3 段階の星印表記とした(表)。



図 1 写真掲載ページ



図 2 疾病の概要文書

表 疾病出現率分類

豚疾病		牛疾病	
星の数	出現率	星の数	出現率
★★★★	2%以上 (1/50以上)	★★★★	3%以上 (1/30以上)
★★★	0.2%以上, 2%未満 (1/500以上, 1/50未満)	★★★	1%以上, 3%未満 (1/100以上, 1/30未満)
★	0.2%未満 (1/500未満)	★	1%未満 (1/100未満)

結果と考察

アンケート調査の結果、新カラーアトラスの内容については、指導員側の意見は疾病写真・レイアウト・掲載疾病数・説明文のいずれについても「新任検査員を対象とした初期の参考資料としては十分」という肯定的なものだった。一方、新任検査員からは疾病の説明文について「臓器の割除または廃棄の度合、保留検査の対象になるかどうか」や「出荷農場ごとに発生率の偏りがある」などの記載が欲しい、といった要望があった。指導する側が充分だと感じていても、研修を受ける側としては疾病の説明だけでなく、検査中の実際の対処や手技についての情報を充実させて欲しい、というニーズを読み取ることができた。

新任検査員のための参考資料としては、本書の主たる目的である当所のと畜検査における実践的な資料、および新任と畜検査員研修の効率化などの観点で、新任検査員と指導員の両者から高く評価された。特に新任検査員によって自主学習の参考資料として活用され、限られた期間内での効率的な知識・技術の習得に大きく貢献したと考えられる。

これらの評価の結果を踏まえて、今年度は牛のと畜検査についても新任検査員用カラーアトラスを作成した。新任検査員の初期の参考資料として適した構成を生かしつつ、当所における牛の疾病の出現率や、要望の多かった疾病ごとの実際の対応について説明を加えるなどの改善を行った。

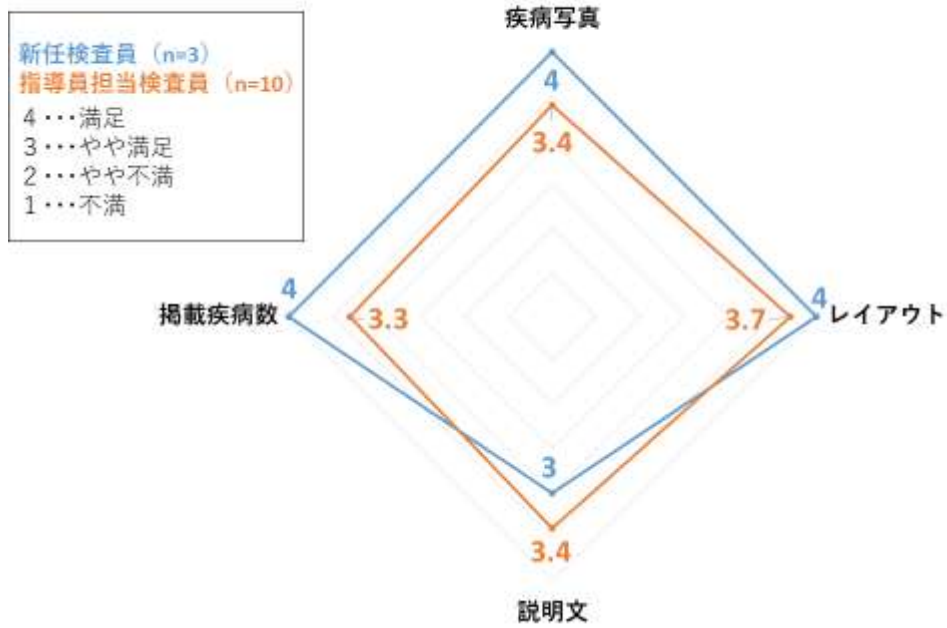
今回作成した新カラーアトラスは、当所におけると畜検査の疾病出現頻度に着目し、重要度の高い疾病を中心に、新任検査員の検査技術の習得が効率よく円滑に進められるよう、簡潔な表現と構成で作成した。電子データ化することで検索の利便性が向上する他、各検査員が自由に検査所共有フォルダ上で閲覧でき、検査すべき疾病が新しく出現した場合などにも随時内容の改訂が行えるため、知識を蓄積し組織全体で共有化を図ることができる。また新任検査員だけでなく、近年の頻発疾病に合わせて編纂することで異動により数年ぶりに検査を行う職員の復習用ツールとしても役立つと考えられる。

今後も新任検査員用研修における有用な参考資料として活用しながら、検査員のニーズに合わせた改訂を行い、適正な検査技術の維持・向上を図ることで、安全・安心な食肉の供給に寄与していきたい。

参考文献

- 1)全国食肉衛生検査所協議会編:食肉・食鳥衛生検査マクロ病理学カラーアトラス
- 2)全国食肉衛生検査所協議会編:新・食肉衛生検査マニュアル
- 3)近代出版:豚病学—生理・疾病・飼養—

Q1. カラーアトラスの内容についての満足度



Q2. 新任検査員のための参考資料としての評価

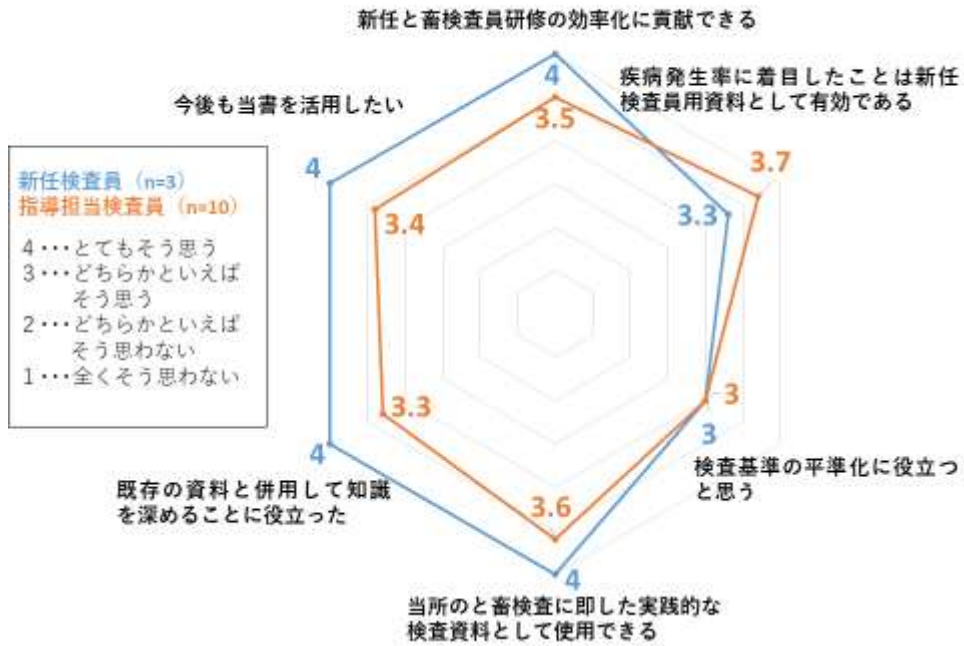


図3 アンケート結果